

■令和4年度 市長をかこむ会

白浜地区 R4.10.6 (木)

19:00~20:13

場所: 白浜地区公民館

出席者	住民	22人	市 大城市長・福岡市立病院事務局長 政策推進課 六條補佐・宮田主任
-----	----	-----	--------------------------------------

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
商工観光課	※事前質疑 市外から転入している若手(新規採用等)職員の八幡浜市の地域活性化・イメージアップ協力の推進について	年度初めに、市内で「新就職者激励大会」が開催されているが、その後の交流や活用などされていないように見受けられる。 貴重な若者が少しでも八幡浜に定住し少子化に歯止めがかかるよう、または、市外に転勤等となっても「ふるさと納税」や「観光客」など八幡浜のファンとして地域の活性化に協力してもらえよう、市の取り組みが必要ではないかと思うが、何かそのような取り組みを行っているか。	八幡浜市発展の原動力としての活躍を期待し、開催している新就職者激励大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度および令和3年度の開催を中止としていたが、今年度は3年ぶりに開催し、市内の新就職者149名(商工観光課調べ)のうち59名の出席があった。 例年、式典、基調講演のほか、新就職者同士の歓談時間を設けているところだが、今年度はコロナの影響を勘案し、新就職者同士の歓談時間については、実施を見送ったところである。 異職種の新就職者が集まる貴重な機会であるので、内容については再検討したいと思うが、この大会だけでなく、会議所や商工会とも連携し、さまざまな場面での情報発信に、積極的に取り組んでいきたいと思う。
商工観光課	※事前質疑 空き店舗などのシャッターを活用した、商店街の活性化について	空き店舗を解消する取り組み以外に、空き店舗を資源として有効活用する方策について、市で何か対策は行っているか。	近年の空き店舗活用事例としては、令和元年6月から、子育て支援事業「やわはま銀座バスケット」を実施している。この事業は、地域・企業・行政が連携した、銀座商店街を拠点として実施する子育て支援事業の総称で、小学生を対象とした夏季休業等の長期休業の際に「休日子どもクラブ事業」などの取り組みを行っている。 また、商店街の中には「黒い商店街」のような、賑わい再生を図る動きもあり、このような取り組みや空き店舗解消のための取り組みがあれば、積極的に支援していきたいと考えている。 市としても、空き店舗の実態として、店舗兼住宅が多いため、賃貸前提にはなるが、地域や時代のニーズにあった、有効な方策があれば、取り組んでいきたいと思う。
政策推進課	※事前質疑 市長への自由な提案募集窓口の開設について	八幡浜市においては、市民からの提案について、直接市長に届くシステムがあるかどうか。 スーパーのフジなどでも、「お客様の声」など受け付けるシステムがあるが、市では見かけない。 あるとした場合、どこにあるか、または、どのように市民に広報されているか紹介したい。	市民の方が直接市長に提案するシステムについては、「市長をかこむ会」がある。 私が市長に就任した翌年の平成22年から昨年までの間、地区に足を運び開催している。これまでに、市の重要施策から地域の身近なことまで、幅広くご意見・ご要望・ご提案を伺い、できるだけ市政に反映させようと努めてきた。 今年度についても、新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで開催しており、四国電力跡地の活用方法などについて、市民の方から具体的な提案をいただいている。 市では意見箱のようなものは設置していないが、「市長をかこむ会」以外についても、地区等からの陳情、各種懇談会、市ホームページ内のお問合せフォーム等で提案することもできる。 そのほか、従来からの担当課への電話や窓口での対応も幅広くお受けしているため、市政に対するご提案があったら、遠慮なくお申し出をいただけたらと思う。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
総務課	※事前質疑 市のホームページの定期的な見直しについて	市では、ホームページの情報について、見直しの規定は定めていないのか。どのようなタイミングで見直しを行っているのか。	市のホームページは、主に各課からの依頼に基づいて総務課で更新している。 見直しの規定は定めていないため、各課の判断で更新している。 また、総務課でも情報が古かったり、間違いを見つけた時点で担当部署と協議し、更新していたが、すべてのページについては見直しできていなかった。 今後は各課と協力して定期的に見直しを行い、最新の情報を利用者の方に提供できるよう改善していく。 【補足】 市ホームページについては、記事の更新をそれぞれの担当部署にお願いしたほか、全面的な更新を今年中に予定している。
市立病院	※事前質疑 地元で出産のできる医療体制の整備について	市として、安心して「産む」ことができる施策として、どのようなことを行っているのか。	当市では医師確保のため、市長、市立八幡浜総合病院院長が毎年愛媛大学の産婦人科に出向き、医師派遣のお願いをしているが、教授から医局の人員不足を常々言われている。 さらに、分娩はすべてが安産ではなく、母体に危険がある場合は麻酔科医、新生児に危険がある場合は小児科医との連携も不可欠になってくる。 現時点では条件が整っていないが、総合病院として八西地域の周産期医療を担うため、早期の「産科」の再開を目指している。 ご提案の広域連携した公立病院「産科」の開設については、近隣の大洲市、西予市の公立病院には常勤の産婦人科医師は在籍していないため、難しい状況である。 本年1月に市立八幡浜総合病院に産婦人科の常勤医師1名が着任され、週5日の外来診療と入院が可能な体制となった。県下では愛媛大学から夜勤等の応援医と常勤医師2名体制で分娩を行っている公立病院もあるので、市立八幡浜総合病院での常勤の産婦人科医師の確保に努めていく。
商工観光課	※事前質疑 ウィズ・コロナ社会における飲食店の利用者増加対策について	市として、利用者が飲食店を安心して利用できるよう、何か対策など行っているか。	愛媛県では現在、愛媛県が定める感染症対策を講じている飲食店に対し、「愛顔の安心飲食店」の認証を行っており、八幡浜市内の飲食店のうち、9月27日現在で104店舗が認証を受けている。 本市としても、愛媛県と連携し、この認証制度への加入促進を図ったところであるが、引き続き、加入促進とホームページ等を通じた認証店の紹介に取り組んでいく。
生活環境課	※事前質疑 市運営の永代供養の進捗状況について	市長の公約にもあったかと思うが、市民が待ち望む「永代供養」は令和何年ごろに完成する予定か。 双岩の火葬場隣接地に造ると聞いていたが、その後の進捗状況について説明をお願いしたい。	市民が納骨堂や墓地に対しどのような認識を持ち、需要がどれほどあるのかを調査するために、8月に市内居住の30歳代から70歳代の200人を対象にアンケートを実施した。 その結果、墓を管理する者(継承する者)がいないため、墓じまい(改葬)をして、納骨堂に納骨したいという方が多くいらっしゃる事がわかった。 まずは、今年度中に市所有の土地の中から、設置場所の基準に合った建設地の選定を進めていく。 なお、火葬場の隣接地は候補地の一つであり、建設地はまだ決定していない。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
税務課	※事前質疑 軽自動車税の 決済について	軽自動車税の支払いをペイペイやカード決済ができるようにしてほしい。 もしくは、コンビニ払いができるようにしてほしい。	令和5年度から軽自動車税(種別割)の納付書に「QRコード」が付されることとなる。これまでは、口座振替や各金融機関の窓口等でお支払いいただいているが、来年度からはそれらに加えて、ご自身のスマホでそのQRコードを読み込むだけで、納税が完了できるようになる。 ただし、金融機関等の窓口での納付には、従来通りクレジットカードはご利用できない。 ちなみに、この仕組みについては、軽自動車税だけでなく、固定資産税、都市計画税、市県民税の普通徴収、国民健康保険税においても令和5年度から導入できるよう準備を進めているところである。 なお、軽自動車税は、5月・6月の2か月間ではあるが、平成25年からコンビニでお支払いできるようになっている。今年度は、口座振替契約者等を除く11,453件の納付書をお送りしたが、そのうちコンビニでお支払いいただいた件数は、5,432件で実に47.4%の利用率であった。
水道課	※事前質疑 水道料金の決 済について	水道料金の支払いをカード決済ができるようにしてほしい。	水道事業の経営は、使用者様にお支払いいただいている料金で成り立っている。 税金等については、来年度から全国の自治体でQRコード化が義務化され、当市においても、各種キャッシュレス決済の導入に向けた作業を進めているところである。この取組は、国の施策であり、納税者の皆様方には特別な負担がないように配慮されている。 しかしながら、水道料金については、この取組の対象となっていないため、仮に市独自に導入を進めると、それに伴う料金システムの大規模改修、当市がカード会社に支払う手数料等、大幅に経費が増えることになり、結果として利用者様にお支払いいただく水道料金の値上げにつながるため、導入は難しい状況である。 当市では、今後人口減少や節水機器等の普及により、水道料金の収入減少が続いていくことを踏まえ、利用者様のお支払い手続きが簡便で、かつ当市の金融機関等に支払う手数料の負担を抑えられる口座振替をお願いしている。 今後とも効率的な事業運営に努めるとともに、利用者様のニーズや社会情勢の変化等を踏まえながら、カード決済を含む新たな決済方法の導入については、引き続き検討を行っていくので、ご理解のほどよろしく願います。
生涯学習課	自治公民館へのフリーWi-Fiの設置について	自治公民館にフリーWi-Fiの設備を設置してほしい。	地区公民館でもWi-Fiを設定しているところがないので、まずは地区公民館から検討していくのが先と思う。 地区公民館には八西CATVの回線が来ているので、Wi-Fi端末を設置したら使えるようになるので、まずは地区公民館からであると思う。
総務課	ポール街灯の設置について	空き家が多くなり周辺が暗くなって歩きづらいので、ポール街灯を設置してほしい。	防犯灯は地区で設置しているものである。地区の代表の方に相談してほしい。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
総務課	街灯のLED化について	大平地区はエリアが広く、まだ蛍光灯の街灯が80数台設置されている。LEDの街灯に変更してほしいが、年2台の補助では40年かかってしまうので、市で交換をお願いしたい。また、災害時に避難道が暗いと大変なため、停電時にも点灯する街灯を設置できないか。	川上地区も防犯灯が多いということだったが、地区の予算で一通りLEDに更新した。これからのことを考えるとLEDに変更した方が良いということで、地区で先にLED化した地区もあるので、大平地区だけ市がするのは難しい。避難道等、本当に必要なところはしないとけないと思っているので、相談してほしい。
総務課	市職員の防災訓練への参加について	病院関係も含め市の職員に地区の防災訓練に参加してほしい。上層部より全職員に地区の防災訓練に参加するよう伝えてほしい。	各年によって職員の防災訓練の設定を決めており、まず地区の防災訓練に参加した後、市の防災訓練に参加する年と、市の訓練を重点的にするため、市の訓練にのみ参加する年がある。今年はこちらの年かということ、地区にも連絡する。 【補足】 これまでも市職員の防災訓練への参加については、地区の自主防災組織に連絡しているが、今後も引き続き連絡する。
総務課・下水道課	避難所へのマンホールトイレの設置について	避難所にマンホールトイレを設置してほしい。	マンホールトイレはマンホールが断絶していたら難しいところがある。八幡浜市ではトイレカーを2台購入している。マンホールトイレがどれだけ使えるか、検討しながら確保していきたい。 【補足】 マンホールトイレは下水道管が地震等により断絶していたら難しいところがあり、応急的には仮設トイレの設置が必要となる。八幡浜市ではトイレカーを2台購入している。各避難所へマンホールトイレがどれだけ設置可能か下水道管路の布設状況を踏まえて判断し、危機管理と検討・連携しながら確保していきたい。
総務課	ペットを飼っている人のための指定避難所について	ペットを飼っている人のための指定避難所を市民に情報公開していくのは大事ではないか。	避難所の一角でペットの管理をすとか、そういうところを決めていかなければならないと思う。地区の自主防災の中で相談しながら、ペットのあり方を検討してもらいたい。 【補足】 ペットを飼われている方自身もペット用の避難グッズを準備していただきたい。また、避難者の中には動物アレルギーを持っている方もいるため、地区の自主防災組織の中で、ペット同行避難のあり方も検討してもらいたい。市では、旧双岩中学校及び旧青石中学校をペット同行避難所として利用できるよう、ペットゲージを大・小10基ずつ計20基をそれぞれの避難所に整備しているので周知していきたい。
総務課・生活環境課	災害ごみの集積所について	災害ごみをあらかじめ集める場所をここにすることが決まっているのか。	今のところ、環境センター、スポーツパークが災害ごみの集積所になっていると思っている。 【補足】 災害廃棄物の仮置場として、スポーツパークのほか北浜公園、王子の森公園、神越コミュニティ公園等のグラウンド、須田埋立地等の埋立地や八幡浜市第二建設残土処理場等の残土処理場など計13か所を候補地としている。災害の規模にもよるが、主に環境センターに隣接しているスポーツパークでの対応を考えている。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
総務課・社会福祉課	災害時の要支援者について	南海トラフ地震が発生したとき、どのように要支援者を避難させたらいのか不安に思っている。要支援者名簿をどうやってうまく活用したらよいかというところが不安である。要支援者避難班といったものに、各地区の民生委員を充てるといった組織が良いのではないか。	民生委員に要支援者名簿を渡している。地区の自主防災会の中で情報共有し、対応してもらえないと思う。自助共助の中に、その情報を交えて、どうしていくかということが大切になるので、ぜひそういうところも考えながら、防災訓練の中で取り組んでもらいたい。 【補足】 昨年、長崎県の大雨特別警報下に高齢者宅に向かった民生委員が亡くなったケースを受けて、厚労省が見守りよりも自身の安全を優先するように、また見守りが必要な場合は自治体等に状況の伝達を、といった通知もあり、高齢者が多い(平均年齢68歳 令和4年10月現在)の民生委員を避難班に充てることは難しいと思われる。
水産港湾課	フェリーのバイク積載台数について	どこのフェリー会社もバイクは5台までしか載せれないと言われた。少ないと思うので、機会があればフェリー会社に増やすよう話をしてほしい。	初めて知った。可能ならば台数を増やしてもらおうよう伝えておく。 【補足】 八幡浜港のフェリー会社に確認したところ、繁忙期(年末年始、GWなど)を除いては、バイクの乗船台数の制限はしていないとのことである。
政策推進課	若者の定住策等について	市外からの新卒者が何十人と来ても、結局定着せずに出て行ってしまふ。何とか増やす、定着するような対応をすることはできないか。	八幡浜市の最大のネックは家賃が高いことである。南予地域外から八幡浜市に移住した場合、月1万円家賃を補助する制度を今年度作った。皆さん方からもこの制度を広めてほしい。 コロナが落ち着いたら、商工会議所、保内商工会と連携しながら、働いている若い人に対してコミュニケーションを取れるような場所を作ってもらおうようなことをこちらからも提案していきたいと思う。 八幡浜に住んでいる外国人も含めて若い人みんなが住みやすいような環境を作っていければと思っている。あとは、その中で、マッチングできる、結婚してもらえるようなことがあれば、ご提案いただきたい。 【補足】 南予地域外から移住した若年世帯・子育て世帯を対象に家賃補助制度を創設した。補助金の上限額は子育て世帯が月15,000円、若年世帯が月10,000円で、最長2年間補助を受けられる。 転入から6か月以内の申請や、居住年数等条件もあるため、対象となるかどうか、事前に政策推進課に相談してほしい。 今後も若者の定住に向け、これまでの取り組みの改善や新たな施策の創設など検討を進めていく。
総務課	避難訓練時の消防団について	避難訓練に自主防災会や公民館は参加しているが、消防団は何をしているのか。	他の地区の消防団では、自主防災会より依頼を受けて避難訓練に参加し、消火器の使い方や心臓マッサージ等を地区の方に教えていた。白浜地区でも消防団に一度声かけをしてみてもどうか。